

## 今月のみことば 2025年1月

主はエジプトの地でモーセとアロンに言われた。「この月をあなたがたの月の始まりとし、これをあなたがたの年の最初の月とせよ。 (出エジプト記 12 章 1,2 節)

### 新しい一年の始まりにあたって

新しい一年を始めるにあたって、皆さんは何か目標を立てたり、抱負を考えているでしょうか。私たちの教会では新年に集まり、聖書のみことばを一人一つ選んで目標、抱負にしています。それぞれの方が前の1年を振り返り、新しい1年をどのように歩みたいかを考え、祈り、指針となる聖書のみことばを選んでいきます。毎年皆さんの選んだ聖書のみことばを見て、私は励まされています。

さて冒頭に掲載した出エジプト記 12 章のみことばは、神様の命令によってイスラエルの最初の月が制定される場面の記事です。この当時、イスラエルはエジプトの国で奴隷として使役されていました。神様はイスラエルの民を憐れみ、奴隷の立場から解放するためにモーセを遣わして数々の奇跡(エジプトへの災い)を起こしましたが、災いが過ぎるとエジプトの王ファラオは強情になってイスラエルを解放しませんでした。そして最後の災いが起こる前に、神様はイスラエルの民の開放を記念して月の始まりとし、そして記念の祭り(過ぎ越しの祭り)の規定を詳しく命じられました。特徴的なことは家族ごとに羊を用意して屠り、戸口の鴨居と門柱に羊の血を塗り付けることでした。最後の災いは、滅ぼす者がエジプトを歩き巡りエジプト中の人、家畜の初子を打たれるという恐ろしいものでしたが、鴨居と門柱に羊の血が塗られている家は過ぎ越され滅びを免れることができました。かくして最後の災いが起こり、羊の血が塗られ過ぎ越された家以外のエジプトの家で初子が打たれました。この結果、ファラオもイスラエル人がエジプトを出ていくことを許し、イスラエル人は奴隷の立場から解放されます。



この過ぎ越しの儀式ですが、実は聖書が語る救いを現わしています。私たち人間は、生まれ持った罪により死という滅びを受ける定めとなっていました。私たちの罪の代価として神の御子であるイエス・キリストが身代わりの子羊として来てくださり、十字架の上で私たちの罪を担って死んでくださいました。私たちはこのイエス・キリストが私の罪を担って身代わりに死んでくださったことを信じることで罪が許され、死からいのちに移されると聖書は語っています。まさに身代わりの子羊の血によって滅びを免れるのです。新しい一年の始めにあたって、この聖書が語る救いの希望を共に学んでみるのはいかがでしょうか。皆様の歩みが、神様に導かれる喜びにあふれた歩みとなりますように。(O)

